

センターだより



大分県障がい者スポーツ大会

目次

- 就任挨拶 1
- 第18回大分県障がい者スポーツ大会 2
- 第57回 蛍の交歓会 ～オンライン交流～ 3
- 感染予防への取り組み 4
- 終了した方の今 5～6
- やってみたいスポーツありますか 7
- 職員の異動 8
- 転入職員からの一言 8
- 終了者の状況、利用者募集のご案内、別府重度障害者センターYou Tubeチャンネル開設のお知らせ・裏表紙



就任挨拶

所長 下山 敬寛

本年4月1日付で神戸視力障害センターから赴任してまいりました下山と申します。どうぞよろしくお願い致します。別府センターは初めての勤務になりますが、施設からきれいな海が見えること、地域の人々が障害者に親切であること、有名な温泉地に施設があることなど、私がこれまで勤務してきた国立施設(伊東、函館)といくつかの共通点があります。またリハビリを受ける利用者の方々の真剣さ、それを支援する職員の熱意、地域の方々と施設の長きにわたる繋がりなども、他の国立施設との共通点だと思っております。私はこれまで施設の支援課職員(社会福祉士)として主に利用者支援にあたってまいりましたが、これからは施設運営全般を担っていく立場として、利用者の方々から「センターを利用して良かった」と言ってもらえる施設を目指していきたいと思っております。

さて、別府センターは昨年11月に創立70周年を迎えました。この70年続いてきた長い歴史とこれまでのリハビリテーションの経験の蓄積を大事にしていくとともに、重度障害である頸髄損傷者に対する就労支援の充実など新たな事業にも取り組んでいるところです。この就労支援は、介護を要する頸髄損傷者にもサービスを提供していること、就労生活を送る上で必要な健康管理も含め、医療スタッフともチームを組んで支援していることなどに特色があります。令和2年10月から事業(就労移行支援)を開始しましたので終了者はまだ少ないものの、現在のところ終了者全員が就職しています。これからは、この新たな事業の発展や、You Tubeチャンネル開設などセンターとして更なる情報発信などにも取り組んでいく予定です。

簡単に自己紹介をさせていただきます。出身は神奈川県平塚市、国立施設に勤務してからは所沢、伊東、塩原、函館、神戸の施設で勤務してきました。趣味はラグビー観戦です。日本開催となった4年前のワールドカップは、試合会場となった大分県も含め日本全体が熱狂しました。当時のラグビー好きな別府センター利用者も、大分スポーツ公園競技場で観戦を楽しんだと聞いております。私も埼玉や東京の会場で観戦を楽しみました。このセンターだよりが発行される頃は、まさにワールドカップフランス大会の開幕直前です。「ワンチーム」になったジョセフジャパンを別府から応援するつもりです。



第18回大分県障がい者スポーツ大会

支援課 生活支援専門職 吉川 杏美

5月に第18回大分県障がい者スポーツ大会が開催され、当センターからは、利用者2名が陸上競技に参加しました。陸上競技は5月20日(土)にレゾナックドーム大分で開催されました。大会に向けて、訓練の時間外に競技の練習に励みました。当日は天候にも恵まれ、爽やかな風を感じながら、競技に取り組むことができました。当センターの選手が出場した種目は、スラロームとビーンバック投げです。障害種別や年齢等によって競技グループが細分されており、種目ごとの出場選手は少数ではありましたが、Sさんは、スラローム、ビーンバック投げいずれの競技も1位という成績を納めることができました。

今回参加した利用者に感想を伺いました。

○ Sさん

あまり外出をしないため、久しぶりに外の空気を吸えて楽しかったです。また、普段は行けない陸上競技場に入ることができて良かったと思いました。競技場内の芝生の緑が写真などで見るよりとても鮮やかで、車椅子で入るのは難しいだろうけれど、可能であれば芝生の上で競技したいと思うほどでした。

○ Tさん

参加して良かったし、楽しかったです。他の障害の方と出会えるなど、良い経験ができました。他の利用者の方々も是非参加したほうがいいと思いました。

当日は、寒さに負けて良いパフォーマンスができず悔しかったです。もっと良いパフォーマンスが出来たらさらに良かったです。

感想を伺って、今回参加された利用者にとってとても貴重な経験になったと感じました。来年は、さらに多くの利用者が参加できるよう、センターとしても心がけていきたいと思います。



スラロームの競技風景



スタジアム全景～きれいな青空～

第57回 蛍の交歓会 ～オンライン交流～

支援課 主任生活支援専門職 阿部 真市

6月8日(木)、毎年恒例の竹田市立南部小学校との蛍の交歓会が行われました。コロナ禍の状況を受け、昨年同様にオンラインでの実施となりました。当センターと南部小学校、それぞれの会場をオンラインでつなぎ、画面越しの交流となりました。

まず、当センター所長、学校長、竹田ロータリークラブ代表の方のあいさつから始まり、その中で蛍の交歓会の歴史に関するエピソードがありました。その後、児童会長のあいさつがあり、南部小学校の普段の様子や蛍と桃太郎がコラボレーションした演劇、蛍の生活を描いた紙芝居など、バラエティーに富んだ映像が披露されました。この日のために準備や練習に取り組んできたことを想像し、目頭が熱くなる思いでした。

児童のみなさんの発表を受け、当センターの利用者から現在訓練で取り組んでいることや、趣味で頑張っていることなどを発表しました。利用者からの「趣味など、なにか頑張っていることはありますか？」との問いかけに、児童一人一人が答えてくれていた様子がとても印象的でした。

会の最後、暗闇の中で蛍の光がきらめく幻想的な映像が流れ、遠く離れた場所においても、蛍の美しさに心奪われる時間を児童と利用者で共有することができました。児童からたくさんの元気をもらい、利用者も訓練への活力にすることができたと思います。もうすでに、来年の蛍の交歓会が楽しみです。



利用者を代表して
あいさつをするFさん

紙芝居 『蛍友情物語』



感染予防への取り組み

医務課 介護福祉士 三浦 寿美、工藤 翔大

センターだより第94号で、感染予防の取り組みとして「環境整備」を紹介しました。今回は、身体介護業務の感染症対策をご報告します。

【 入浴 】

* 入浴介助方法の見直し

以前は入浴介助と着衣介助する職員を分けて対応していましたが、最後まで2人で介助することにしました。4人から2人となり、利用者1人に対して入浴介助に関わる職員を半数に減らすことができました。

* 物品使用方法の見直し

リフターベルトにタオルを巻いて使用します。入浴後に使用していたイーゼースライダー、ストレッチャーの使用を中止しました。

* 1時限ごとに換気します。

【 排便 】

* 排便に使用する物品の変更。

ビニール袋を使用した排便へ変更。「在宅生活ハンドブックNO11.在宅での排便管理をご参照ください」感染の可能性がある排泄物の飛散を防ぐ事ができます。

【 感染防止対策マニュアルの作成 】

* 看護部門が感染防止対策マニュアルを作成しました。それに基づき、消毒液による尿器等の消毒、ベッドパンウォッシャーによる消毒を開始。(写真参照)

【 感染症対策 】

利用者が感染してもすぐに対応できるように、ガウンテクニックや感染症対策について、看護部門と連携して情報共有しています。現在も、新規利用者、外泊者については感染症対策として一定期間の隔離などご協力を依頼しています。

5類に移行し世の中の的にはコロナによる規制は緩和されましたが、コロナ以外にも感染症に罹患する事は誰しもあると思います。今後も、感染拡大を起こさないように、気を引き締めて感染予防に努めてまいります。



終了した方の今

支援課 主任就労支援専門職 中山 修司

以前に比べて、在宅就労という勤務形態がずいぶんと整ってきたように感じます。障害のある方にとって、就職の一つの壁とも言える通勤がないことは、仕事に集中できる環境設定の最たるものかもしれません。今回は、当センターの自立訓練から就労移行支援を経て、在宅就労を行っている方をご紹介します。

Nさんは、自立訓練を令和元年6月から令和3年6月まで行った後に、就労移行支援へ移行し、令和4年6月に終了しました。終了のひと月前に自宅へ戻り、在宅生活を開始しながら、リモートによる就労移行支援を行っています。

【生活状況】

在宅生活を開始してから、思うように体調が整わず、作業時間の確保も難しい状況でしたが1年が経過して、徐々に体調も安定しつつあるようです。

月・水・金はデイサービスに通って入浴と排便を行っています。デイサービスがある日の1日の流れは以下の通りです。6時半に起床し、7時半に乗車。8時にヘルパーが来て洗面や準備、外出のためのスロープ設置などを行います。9時頃にデイサービスの迎えがあり、9時半頃にはデイサービスへ到着。デイサービスでは、基本的には自由時間となっていて、タブレットを使って動画を見たりしていますが、いずれはPCを持ち込んで作業などができればと考えています。午後は排便と入浴。帰宅は17時半頃。20時半頃に降車し、21時から22時に就寝です。

デイサービスがない日は、訪問リハや訪問看護を利用して体のメンテナンスを行っています。火曜日は、9時から1時間程度、訪問リハが来て、ストレッチや足を動かす筋力トレーニングなどを行っています。木曜日は訪問看護による健康チェックなどを受けています。訪問リハや訪問看護が帰った後の10時以降と土日にPCを使った作業を行っています。



自室風景

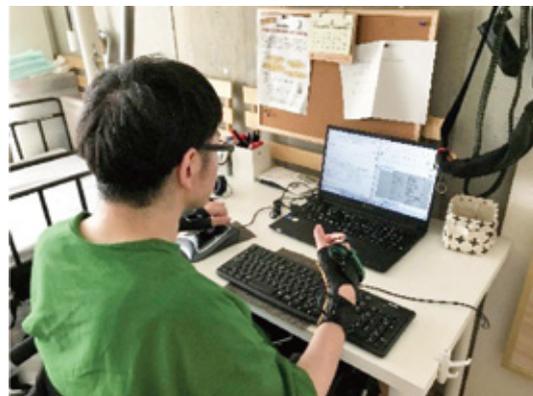
【ショートステイについて】

現在、Nさんは自宅でヘルパーや訪問看護といったサービスを利用しています。連日のように人の出入りが生じてしまうことから、落ち着かないと感じることもあるようです。たまには自宅を出ることで、家族にも落ち着ける時間を持ってほしいと考え、ショートステイの利用も開始しました。ショートステイ先では、外出も自分の好きな時間に出かけることができ、利用するデイサービスの送迎はショートステイ先にも来てもらえることから、今の生活スタイルを崩すことなく、Nさん自身の気分転換にもなっているようです。

【作業内容】

縁のあった福祉施設から、依頼された品物の納品書を作成しています。これは、数字入力メインの作業です。このほか、同事業所が行うイベントで販売する洋菓子のパッケージデザインやポップの作成なども行っています。また、在宅就労を行う事業所にも登録し、企業のロゴ作成や企業概要のリスト作りなどを行っています。パッケージデザインやポップ、ロゴ作成などは、当センターの就労移行支援で行った課題(インシデント等注意喚起のポスター作りなど)がとても役に立っていると話してくれました。

現在の作業時間は週辺り10時間から15時間程です。作業に対する賃金は受けていますが、さらに収入を増やしていきたいとのことでした。



作業中のNさん

【センターで学んで、今に活かされていること】

以下の3点を挙げてくれました。

- ・前述のポスター作りは、今のデザイン作成に役立っている。
- ・就職活動に向けて作成した自己PR票(職務経歴、得意とすること、障害状況、配慮を要する事項などをまとめたもの)は、今も就職活動時に活用できている。
- ・PC検定試験にはとても苦労したけれども、繰り返し同じ課題に取り組むという経験をしたことで、単純作業を飽きずに行う忍耐力がついたと感じている。データエントリなどの作業を行う際にはその経験が活かされていると思う。

【センターで教えてほしかったこと】

訪問看護などのサービス利用時にかかる費用や、グローブのゴムの張り替え業者がどこにいるのかなど、実際に生活してみて分かったこと、困ったことが多くあったそうです。ということで、もっと在宅生活のリアルな情報があれば良かったとのことでした。

冒頭であった通り、在宅生活開始直後はなかなか体調が安定しなかったNさんですが、1年近く経過して、徐々に体調も整い、伺った時には以前と変わらない笑顔で出迎えてくれました。お話を伺う時も笑顔を絶やさず、生活場面で利用しているいろいろなサービスについて伺っている時も、どの事業所でもとても良い人たちに恵まれていると口にされていました。きっとNさんのお人柄が、良い人たちを引き寄せているのだと思います。

また、空いている時間を上手に作業時間に充てて、作業リズムも整いつつあるようです。収入を上げていきたいということで、ステップアップしていく準備は整ったように感じました。

ここまで、一歩ずつ進んで来られたと思います。また、持ち前の明るさと前向きさで、これからもご自身の可能性を大きく広げられる予感がします。Nさんの、さらなるご活躍を期待しています。

やってみたいスポーツありますか

医務課 運動療法士長 木畑 聡

6月のある日のことです。10年以上前に終了したTさんが福岡で開催された日本ボッチャ選手権大会予選会参加の帰りに別府重度障害者センター(以下センター)に寄ってくれました。お話を伺うと、Tさんはセンターを終了して家庭復帰していましたが、リオデジャネイロパラリンピック大会ボッチャ競技における日本選手の活躍を見て「ボッチャをやりたい」と思ったそうです。ボッチャをセンターのスポーツ訓練で実施したことを覚えていらして、家族も巻き込んで取り組み始め今日に至ったようです。ご本人とお母さま二人三脚で、全国各地の大会や練習会に参加しながらボッチャを楽しみつつ、そこで出会った様々な方と交流を深めていらっしゃるようです。

センターでスポーツ訓練に参加された利用者の方にはいろいろなゲームスポーツを楽しんでいただけたかと思います。しかしながら、その多くの種目はセンター独自のルールであり、地域では行われていないものがほとんどです。そのような中でも、希望される利用者の方には「生涯スポーツの導入」ということで、地域で行われている種目をご紹介します。それらの種目についてはセンターにノウハウもありますので、「センターではやらなかったけどやってみよう」とか「当時はあまり面白いと思わなかったがやってみたくなった」など興味がありましたら、スポーツ訓練担当までご連絡ください。

頸髄損傷者が可能なスポーツ(国内で取り組まれているもの)

○センターでノウハウの提供が可能な種目 ()内は実施可能な機能レベル

車いすツインバスケットボール(C5～)・卓球バレー(C5～)・車いすマラソン(C6～)・アーチェリー(C6～)・ボッチャ(電動～)・全スポ陸上競技種目【スラローム(電動～)・ビーンバック投げ(C5～)】 ハンドサイクル(C6～)



ツインバスケットボール



ボッチャ

○センターで支援実績がない種目

ウィールチェアーラグビー・電動車椅子サッカー・車いすテニス・車いすダンス・ペトラ(自転車 不全麻痺者)

*センターでノウハウの提供が可能な種目については、基礎的な技術や必要な装具等の情報提供が可能です(センターホームページにもハンドブックとして掲載しています)。

職員の異動

令和5年3月31日付

- | | | |
|-------|----------|-------|
| ○辞職 | 所長 | 白浜 一 |
| ○任期満了 | 医務課作業療法士 | 西崎 千春 |

令和5年4月1日付

- | | | |
|-------|--------------|-----------------------------|
| ○転入 | 所長 | 下山 敬寛 (神戸視力障害センターより) |
| | 庶務課長補佐 | 佐藤 智治 (神戸視力障害センターより) |
| | 庶務課主査 | 白石 朱音 (福岡視力障害センターより) |
| ○再任用 | 庶務課長補佐 | 西川 浩一 |
| ○転出 | 庶務課長補佐 | 菅原 克之 (国立障害者リハビリテーションセンターへ) |
| | 庶務課会計係長 | 佐藤 美紀 (福岡視力障害センターへ) |
| | 支援課生活支援専門職 | 松寄 啓 (国立障害者リハビリテーションセンターへ) |
| ○内部異動 | 支援課主任就労支援専門職 | 中山 修司 |
| | 支援課主任生活支援専門職 | 阿部 真市 |

転入職員からのひと言

佐藤 智治(庶務課長補佐)

地元大分県(おとなり大分市)出身の52歳です。平成4年にこちらのセンターを皮切りに公務員生活をスタートさせ、度重なる転勤(西日本のみですが)を経て、今回また戻ってまいりました。別府センター勤務は2年ぶり4回目で、トータル14年目になります。みなさんよろしくをお願いします。

白石 朱音(庶務課主査)

福岡視力障害センターから転入してまいりました白石と申します。別府重度障害者センターは2度目の勤務となります。美しい山や海に囲まれた自然豊かな別府で、新たな気持ちで仕事に取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

終了者の状況

(令和5年1月1日～令和5年6月30日)

復帰形態	家庭復帰	就職	自営・内職	復職	就労移行支援	就労支援施設・能開校	他施設	進学復学	その他	計
人数	7	1	0	0	0	0	1	0	0	9
比率(%)	77.8	11.1	0	0	0	0	11.1	0	0	100.0

利用者募集のご案内

当センターが提供する障害福祉サービス

サービス名	サービス内容	利用期間
就労移行支援	パソコン訓練、維持訓練(理学療法、作業療法、スポーツ訓練)	概ね1年間程度(対象となる方の障害状況等によって最長2年間)
自立訓練(機能訓練)	理学療法、作業療法、スポーツ訓練、社会参加訓練等	利用開始後の概ね2週間で各部門が評価や面接を行い、その結果に基づき作成された個別支援計画書に定めた期間となります。
施設入所支援	自宅から通所が困難な方は、看護・介護等の支援を受けながら宿舎の利用が可能です。	就労移行支援、自立訓練の利用期間に応じて設定されます。

別府重度障害者センターYouTubeチャンネル開設のお知らせ

センターでは、提供しているサービス内容をご紹介する動画を作成中です。初回の動画配信は秋頃を予定しております。今後定期的に動画をアップして行きます。詳細はホームページをご確認ください。その他詳細な情報を掲載しております。合わせてご覧下さい。

別府重度

検索


<http://www.rehab.go.jp/beppu/>

お問い合わせ先

別府重度障害者センター 支援課

電話 (0977) 21-0182 (利用相談) FAX (0977) 21-2794

E-mail soudan-beppu@mhlw.go.jp